

第116回 令和7年11月4日（火）

11月1日の土曜日は即興型ディベート大会を見学しました。本校は2勝1敗で惜しくも入賞は逃したものの、3勝したのは全体で2つだけでしたから、ポイント差の僅差と言うことで大健闘だと思います。生徒11名の参加は最多と言うことでとてもよかったと思います。

3日の月曜日はバスケット男女の新人戦を観てきました。男女とも勝利。どちらもシュートレンジが広がって良い戦いでした。男子はアウトナンバーのフィニッシュ、女子は1線でボールに振られないようにすればさらに良くなると思いました。次も頑張ってください。

私はいま骨折した右手に装具を付けています。家の納戸には昨年アキレス腱を断裂したときに使った装具が捨てられずに置いてあります。

何となく自分と一時期一緒に過ごした大事なものって捨てられません。特に装具はこれがないと動けなかったわけですから、そのときの苦労を思い出して懐かしく感じたりします。

他にそのようなものはないか考えてみました。いまはさすがにありませんが、ランドセルはなかなか捨てられませんよね。加工してキーホルダーにしたりすることもあるようです。子どもたちが小さいころ遊んだおもちゃや、ベビー用品もなかなか捨てられません。すでに成人しているのですが、いつか使うかもというよりも思い出が詰まっているような気がしています。

自分が現役で動いていたころのクラブチームのユニフォームも結構長く持っていました。見ると過去の試合を思い出します。いまは捨ててしまっただけが残っていませんが、いつかまたやりたと思っているうちに時が過ぎ去ってしまいました。いまは右腕と足がこれでは無理ですね。やりたかったときにやっておくことの大切さがわかります。

そのときは嫌だったり、面倒くさかったり、飽きてしまったりすることがあっても不思議と時がたつと良い思い出だけが残ります。それが晩年に自分の財産になっていくのだと思います。

人間は忘却する生き物ですが、悪い思い出を忘れてしまう機能は本当にありがたいと感じています。

ふと考えると私たちの教師と言う仕事も同じですね。教科担当や顧問、担任と関係の深かった教員はいますが、卒業すると教える、教わるという関係は無くなります。

それでも一部の教員とはたまに会ったり、手紙を送ったりして人間関係が続いたりします。良いときばかりではなかったとしても、後になると悪い思い出は笑い話になったりします。

私も部活の教え子たちとたまに会いますが、みんな私に叱られたことなどなかったかのように優しく接してくれます。教師をやっていて良かったと思う瞬間です。